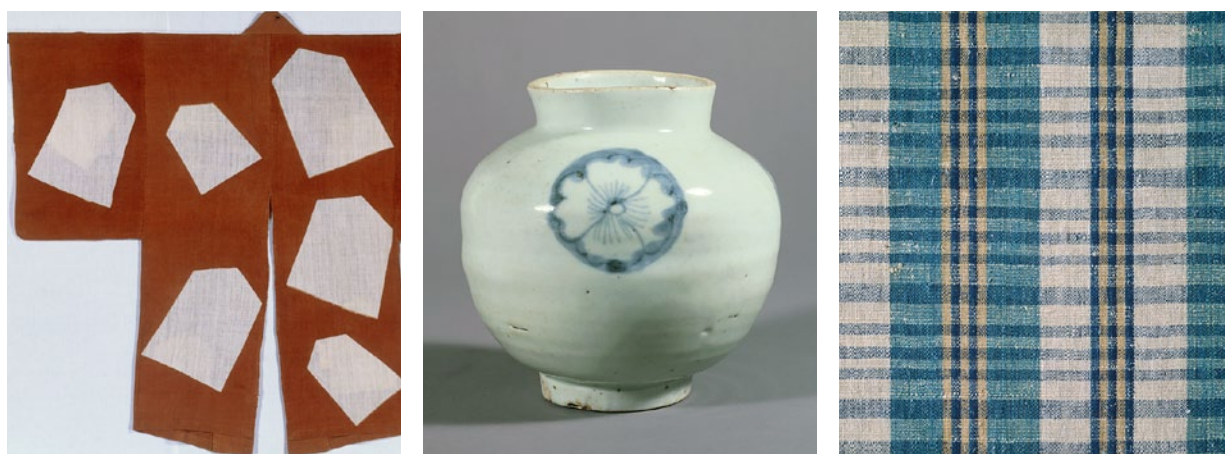




- | | | | | |
|---|---|---|-------------------------------|--|
| 1 | 2 | 3 | 1. 垢取り 沖縄・糸満 20世紀前半 幅 31.2cm | アメリカ・ニューメキシコ州 18世紀 |
| 4 | 5 | 6 | 2. 染付家型水滴 朝鮮時代 19世紀後半 幅 7.7cm | 6. 黒釉山茶家 薩摩・苗代川 大正～昭和時代 20世紀前半 高18.0cm |
| 7 | 8 | 9 | 3. 朱漆片口 沖縄 20世紀前半 高 11.9cm | 7. 柿色地駒散し文様羽織 江戸時代 19世紀 丈102.0cm |
| | | | 4. 塗分盆 江戸時代 18世紀 径 25.8cm | 8. 染付花文壺 伊万里 江戸時代 17世紀 径 11.8cm |
| | | | 5. レタブロ 聖ジェローム像（部分） | 9. 丹波布夜具地（部分） 江戸末期～明治時代 19世紀後半 |



開館時間：午前10時～午後5時（入館は16時30分まで）
 休館日：月曜日（ただし祝日の場合は開館し、翌日振替休館）
 入館料：一般1,100円 大高生600円 中小生200円
 交通：京王井の頭線駒場東大前駅西口から徒歩7分
 所在地：〒153-0041 東京都目黒区駒場4丁目3番33号
 電話番号：03-3467-4527
 西館公開日（旧柳宗悦邸）：
 会期中の第2水曜、第2土曜、第3水曜、第3土曜（入館16:00迄）

<http://www.mingeikan.or.jp/>

日本民藝館

愛される 民藝のかたち

館長 深澤直人がえらぶ

2015年 3月31日(火)
 - 6月21日(日)

日本民藝館

<http://www.mingeikan.or.jp/>



羅漢像 朝鮮時代 19世紀 高 20.0cm

愛される民藝のかたち ―館長 深澤直人がえらぶ

柳宗悦の蒐集に現れる顕著なアーキタイプ（典型）は美学全般に及ぶものからすると顕著な偏りがあることがわかります。その蒐集の概念を柳宗悦自身の好みと取ることもできますが、それはある種の普遍と強く結びついていることも事実です。その概念を簡単に一言で言い表すのは容易ではありませんが、あえて誤解を避けられないことを承知で称するとすれば「かわいい」ではないかと思うのです。「かわいい」という言葉には多くの概念が溶け込んでいます。一見軽率な現代用語に聞こえるかもしれませんが、美学の普遍を深く鋭く突いていることは否めません。

蒐集品を眺めていると人を拒絶しない愛くるしさが滲みでてくるのがわかります。ゆるい、素朴、飾らない、研ぎ澄まされない、暖かい、そして愛くるしい。これらは雅で荘厳な美とは異なります。Cool／かっこいい、に対して、Warm／暖かい、なのです。Cherishということがありますが、これは希望や感情を心に抱く、胸にしまっておく、あるいは人や物を可愛がる、大切にする、愛情をこめて世話をするという能動的で感情的な意味があります。また Preciousという言葉には大切な、希少な、かけがいのない、宝物、大事な、いとしい、かわいい、あるいは、ぎこちないといった、物から感じ取れる感覚的な意味があります。柳の蒐集熱にはこの三つの言葉、Warm、Cherish、Precious が当てはまるのではないかと思います。

美を表す言葉には閑寂、さび、冷え、情趣などもあり、これらの感覚が蒐集品から感じ取れないというわけではありませんが、あえて称すれば「厳しさの美」というよりは「おおらかな美」なのです。単品が発する美ではなく蒐集の結果から絞り出されたエッセンスが「かわいい」なのかもしれません。柳の蒐集熱が伝えたかったことはその多量な中から抽出された単純な愛の表現だったのかもしれませんが。蒐集とは多くの物によって、それらを貫く概念を露わにすることだと思います。逸品から発せられる美のみを語ることとは異なります。

蒐集やその概念「かわいい」は柳宗悦の「平和思想」や「愛」とも密接に関係しているように思えます。

この「愛される民藝のかたち」展は 17,000 点あまりの蒐集品の中からさらに顕著に「愛らしさ」が滲み出してくる 150 点あまりの品々を選定し展示します。その愛情豊かな美の表情を味わっていただきたいと思います。

日本民藝館五代目館長
深澤直人

記念対談「愛らしい民藝」 4月3日(金) 18:30-20:00

〔講師〕 鞍田崇（明治大学理工学部准教授）
深澤直人（日本民藝館館長・プロダクトデザイナー）
料金・300 円（別途入館料が必要） 定員・100 名（要予約）

展示室 1 階

〔玄 関〕 郷土の人形

江戸時代後期から明治期にかけて作られた、日本の古人形を紹介します。福島県の三春人形、宮城県の堤人形、山形県の相良人形、埼玉県の鴻巣人形など、土地で暮らす人々の間で親しまれた人形たちの生き生きとした姿をご覧ください。

〔第1室〕日本の陶器

当館所蔵の日本の陶器は、九州や東北、関東の諸窯・丹波・瀬戸など、各地で作られたものです。主に民衆の普段使いに供した品々で、民窯と呼ばれた窯で生まれました。それらは自然の恩恵を深く受けた材料や手法を用い、健やかで豊かな美しさを宿しています。

〔第2室〕アフリカの造形

当館が所蔵するアフリカの工芸品類は 1980 年代以降集中的に蒐集されました。多様な表情を見せる仮面・ラフィアや樹皮を用いた衣装類・陶器の壺・ナイフ形の貨幣等、みな生活に根差した造形で、その多くは信仰や祈りと深く関わり原始の息吹を今に伝えています。

〔第3室〕日本の染織

100 年程前までの日本では、植物染料で染めた糸で織った、麻や木綿の着物や仕事着が日常当たり前に用いられていました。縞・格子・緋の着物をはじめ、僅かな残糸も無駄にせず織った、てらいのない素朴な布を中心に展示致します。

展示室 2 階

〔大展示室〕 愛される民藝のかたち ―館長 深澤直人がえらぶ

〔第1室〕朝鮮半島の陶磁器

朝鮮陶磁器においてとくに白磁は、シンプルでありながらも、多くのイメージを私たちに与えてくれます。見る角度、時間の経過、置かれる場所、様々な環境のなかでその表情は変化していきます。こうした奥深い魅力を持つ白磁を中心に、朝鮮半島の陶磁器を紹介します。

〔第2室〕濱田庄司作品 ―柳宗悦が見た濱田作品

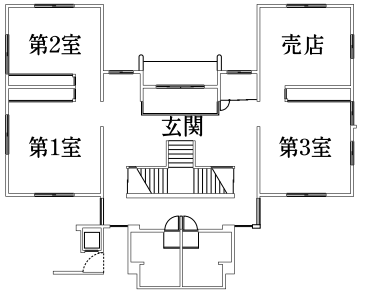
濱田庄司（1894-1978）は、当館創設者・柳宗悦（1889-1961）が最も高く評価した作陶家の一人です。柳最後の編著作『濱田庄司作品集』（1961 年）には、柳が見た濱田作品の精華が示されています。その掲載作品を中心に、柳家で使用された作品を交え、柳が見た濱田作品を検証します。

〔第3室〕柳宗悦の表装 ―江戸時代の絵画を中心に

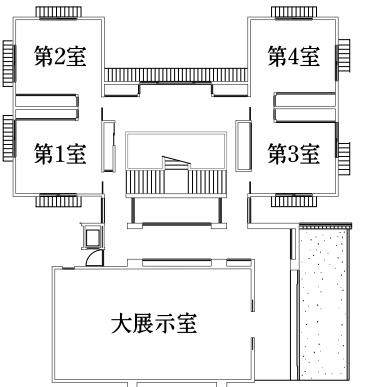
当館が所蔵する絵画の多くは、柳宗悦が蒐めたものですが、柳はそれらに古布や陶軸などを用いて独創的な装案を施し、作品自体の魅力を効果的に引き出しました。本展示室では、江戸時代の絵画などに施された、柳の「創作」とも言える掛幅装や屏風装などの装案の仕事を紹介します。

〔第4室〕編組品と木工品

竹や藁、蔓や樹皮など、身近な自然の材料を編んで作られる編組品と木工品を併せて展示します。かご、ざる、箒、自在横木など、農や漁の道具、あるいは台所や囲炉裏回りの生活用品として活躍したものを中心に、実用品のものがつ造形美を紹介します。



〔玄関〕三春人形 高砂（部分）
江戸時代後期 19世紀前半



〔2階第2室〕象嵌茶碗
濱田庄司 1942年 径11.3cm



白磁線彫文杯 朝鮮時代
19世紀後半～19世紀末期 径9.7cm



型吹硝子菊型食籠
江戸時代後半 19世紀 径17.0cm



鍋 石製 朝鮮時代 19世紀末期 高17.5cm



提籠（はけご） 山形県
昭和時代前期 20世紀前半 高30.0cm